



学校通信

創造・敬愛・誠実

平成30年度 7月号

益田翔陽高等学校

TEL 0856-22-0642

FAX 0856-22-0684

平成30年度 第1回益田翔陽高校授業力向上検討協議会

昨年度からの2年間、本校は「教育課程実践モデル事業」の指定を受けました。これは、授業の中で「生徒の主体的な学び・対話的な学び・深い学び」を実践していくための方法を研究し、実践していくものです。

7月12日(木)に、4人の教員による研究授業と前年度報告会を行いましたので、ここで紹介します。また、当会に参加していただきました関係者の皆様、大変ありがとうございました。

◆研究授業① 現代文A



↑グループで意見を出し合っています。

▼参観者の感想

- ・活発に話し合いや質問を行っており、日頃から教員-生徒間の関係がうまくいっていることがうかがえる授業だった。
- ・教材は、生徒にとってとても難解なものであったが、懸命に取り組み、解決しようと努力をしていた。むしろ、努力しようとするような工夫がなされていた。
- ・生徒一人一人が、グループ内で発信する場面があり、さらにクラス全体で意見を出し合い、いくつかの答えを導いていくことによって、とても内容の濃い授業だった。

◆研究授業② 家庭基礎



↑農場見学へ行った時の野菜をスクリーンに映しています。

▼参観者の感想

- ・日常生活と密接に関連しており、取り組み状況もとても良かったと思う。
- ・PowerPointの使い方、写真資料などICT活用が工夫されていた。発問が多く、考えさせること、お互いに話すこと、など活動的な場面が多かった。楽しく学べて雰囲気良かった。
- ・見通しや流れがこの1時間のことだけではなく単元を通してよくわかる。実体験を交え、学科・教科の枠を越えて連携していて、うらやましく思った。翔陽だからこそその特色を生かしていた授業だった。

◆研究授業③ 生産システム技術



↑学習内容をカレー作りと重ねて考えています。

▼参観者の感想

- ・工程管理という難しいテーマに対し、カレー作りという身近な教材を扱うことで、生徒が主体的に取り組める授業になっていた。中でも、ガンチャートの記入をまな板1号、2号を使って効率よく作業する方法を示されていて良かった。
- ・授業のそれぞれの内容について、生徒は興味関心を寄せ、積極的に作業に取り組んでいた。
- ・意見を求められた生徒が答えやすいようにフォローが適切になされていた。先生の思いやりを感じた。

◆研究授業④ コンピュータシステム技術



↑生徒が熱心に作業をしています。

▼参観者の感想

- ・生徒は前半の講義をしっかりと聞こうと努力し、中盤の作業にも熱心に取り組んでいた。
- ・生徒の思考を深めるための声掛けや問いの工夫(なぜ?そう考えるのか生徒に説明させるなど)も取り入れることができる授業だった。生徒が「学び合い」に対し大変積極的だったのが印象的だった。
- ・教材及び何を評価するのかを考える良いきっかけになった。
- ・日常生活とのつながりを考えた工夫をする必要性を感じさせられました。

◆前年度報告会・協議会

▼参加者の感想

- ・「まねるだけ」では、いけない。オリジナルを作ることが大切であると勉強になった。
- ・授業をより良いものにするために個人はもちろん、組織として力を入れていかなければならないと、参考になった。翔陽スタンダードを継続していきたい。
- ・他科の実践から学ぶこと、外部の目で見られたことから学ぶことがあり、取り入れられることを考えようと思った。



教員も生徒と同様、グループで意見を出し合います。

8・9月の行事予定

1 (水) 追認試験② (3年生)	28 (火) 始業式・分団集会③	14 (金) 基礎製図検定
3 (金) 夕方ふれあい市	31 (金) 追認試験② (2年)	25 (火) 中間試験 ~27日
7 (火) 体育祭準備	9/3 (月) 自転車指導・施錠点検	28 (金) 分団集会④ (5限目)
8 (水) 農ク中国ブロック大会 ~9日	4 (火) インターンシップ ~6日	体育祭準備 (PM)
家ク指導者養成講座	12 (水) 研究授業日④	29 (土) 第2回一日体験入学
20 (月) 体育祭準備 ~24日	13 (木) 進路テスト	体育祭準備 (AM)
26 (日) PTA美化作業	本校ホームページ (http://masudashoyo.jp/) もご覧ください	